

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709558		
法人名	株式会社 和幸		
事業所名	グループホーム寿敬庵(寿敬庵棟)		
所在地	秋田県横手市十文字町腕越字山道端79-11		
自己評価作成日	令和2年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最後まで精一杯寄り添いたいという利用者様への想いがあるからこそ動けていることがたくさんある！という所です。職員は日々レベルアップを自覚し疑問を吐き出して皆で解決に向かえる環境の中利用者様方と一緒に楽しく仕事ができています。特に力を入れている点としてはヒヤリハットと皆で行うカンファレンスです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年各ユニットの理念の見直しを行っており、全職員で話し合っケアの目標としています。利用者これまで以上に信頼関係を築き、日常の多くの関わりの中で意識を統一し、理念の実践に向けて支援できるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年度理念の反省を踏まえて今年度は「安心工房・向上信頼」という言葉をかかげています。しっかりと意識をしながら関係性の構築に努めています。具体的にはカンファレンス等で意識の見直し、方向性の修正しております	年度末に達成度を振り返り、ユニット毎に毎年新しい理念を作成してケアの目標にしています。カンファレンス等で確認し、さまざまな支援の場面で活かせるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「運営推進会議」や地域サロン「cocode輪っこ」「フレッシュランドリー」を通し交流しております。利用者様のお散歩コースとして輪っこやランドリーへ立ち寄った際には地域の方々とお話しされることもあります	敷地の一画にある地域サロンを地域の方々が使える場所として提供しています。新型コロナウイルスの影響で例年のような交流はありませんが、利用者が畑に出ている時には通常と変わらない交流の場面がみられます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議にて生活の様子や取り組み内容等の写真を観て頂きながら説明・報告しております。又、利用者様の生活スペースであるホールで会を行う事により、ありのままを伝える事ができています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政の方、地域の方、ご家族に参加して頂いておりますが外部の方の意見は気が付かされる事が多く、サービスの見直し・向上に繋げております	当日の課題に合わせて地域の方に参加を依頼してホームの理解に繋げ、協力が得られるよう働きかけています。現在は職員のみで開催しており、意見交換できる機会となっていてサービスの向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者(課長)や管理者が出向き、報告・相談を行っている	相談事項に対応していただいたり、地域ケア会議への参加等で連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待委員会を3か月に1回開き、正しい理解で仕事ができるよう話し合った内容を職員全員で周知している	適正化委員会を開催して職員への周知を図り、家族には身体拘束をしないケアを理解していただいています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待委員会を3か月に1回開き、勉強会の内容を職員全員で周知するようにしている。又、問題提起できる環境を作り日々見直ししながら防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中に、日常生活自立支援事業を活用されている方がおります。活用前に職員同士や上司と共に制度の確認や理解・必要性を勉強する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時一緒に読み・確認・質疑応答しながらゆっくり行っている。理解や納得をされた時点でサイン・押印してもらうようにしている。極力その時に出た質問等に対してはその場で答えるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望箱、ケアプラン説明時等にご家族からの要望や意見を聞き出したりしている。問い合わせ等が出た際には職員会議や運営推進会議等で話し合いを行い記録へ残したものを運営側へ提出し反映してもらえるようにしている	現在は電話での対応が主となっておりますが、家族からは費用負担に関する要望等、率直な意見も出されており、利用者の状況を伝えて質問や要望に応じています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やケアカンファレンス等で出た意見を話し合い、記録へ残り提出する事で代表者に現状を知ってもらい反映してもらえるようにしている	会議やカンファレンスで職員に情報を発信し、意見や提案を聞き取って環境の整備、改善等に繋げており、ケアや運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価を行い提出する事で緊張感ややりがい、向上心が持てる様に又、第3者に評価される事で良い緊張感を持ち就業できるようになると思う。給与なども実績・勤務状況に応じた給与が貰える体制に徐々に変わってきている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアを通し、その日に出たケアに対する疑問はその日の職員同士や上司とで話し合いをしてよいサービスができるように対応している。また、職員会議でもケアに対し学べる機会を作りスキルアップできるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換会や地域ケア会議へ参加し、事業所での活動等を報告したりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際に本人やご家族から、どんな生活を望んでいるのか、どんなことが不安であるのか等をしっかり聞き取りし入所初日から安心して過ごせるような環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に、ご家族と話す機会を作り金銭面等困ったりしていないか、どんな事がわからないかを細かく話し合い不安にならないように対応している		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活していく中で、「お手伝いさせて頂く」という気持ちを忘れず大切にし、一人一人に合わせた支援ができるように努めている		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の現在の状況、変化などは都度ご家族へ電話等で伝えている。又、2か月に1回お手紙とホームでの様子や行事へ参加した時の写真等を同封し安心してもらえる様に努めている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの馴染みの人への電話やお手紙、外出を通じて関係が途切れ無いように支援している	感染防止のため、馴染みの間柄になっている訪問理容を中止しており、家族、知人とは電話で話す機会を多くつくっています。会話の中から得意なこと等を見つけて生活に取り入れることができるよう努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格、特徴を理解しトラブル等になり関係が悪化しない様に配慮している。又、トラブルになりそうな時は仲介したり、お互いの意見をしっかり傾聴しそれを取り入れながら今後活かせる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談等は電話で受け付けしたり、入院などしている場合は見舞いへ出向いたりして本人やご家族が困らない様に支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面談時にしっかりと聞き取りし自宅で暮らしていた様な暮らしができるように努めている。又、居室担当者が密接に関わり本人の状況や願いの把握に努めたり、他職員からの気付きも活かしてその方の意向に沿えるよう日々の生活支援に努めている	密にコミュニケーションを図ることに努め、どんな時に話しやすいのかを個々に配慮し、利用者の思いや希望を把握してホームでの生活に活かせるようにしています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にご家族へ聞き取りしたり、基本情報シートを活用して本人の状況把握に努めている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の1日の過ごし方・心身状況を記録へ残し職員同士で情報共有し、現状把握や小さな変化の発見に努めて一人一人が有意義に生活できるように支援している		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、一人一人にどんな支援等が必要かをしっかり話し合い、介護計画に反映させている	担当職員のモニタリングを基に、全職員で検討して現状に即した介護計画を作成しています。本人、家族の意向も反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事や水分補給・排泄状況等を記録に残し、職員間で情報共有したり、ケアプランの見直しの際にもしっかりと反映させる事ができる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張床屋・訪問歯科等を利用し外食や買物時には出来る方には付き添いの元自身で支払いを行って頂き満足感が得られるように対応し楽しみながら暮らせるよう支援している		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は入居者様、ご家族の希望で入居前より通院しているかかりつけ医で継続しており通院介助は職員が行っている。時にはご家族の協力も得ながら納得の医療が受けられるように支援している。又、薬局、訪問歯科とも関係を築きながら適切な医療が受けられるよう支援している	入居前からの医療機関での受診を継続しており、本人、家族の希望に沿って対応しています。医科、歯科の訪問診療を受けている方もおり、適切な支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており週に1度健康チェックにきて頂いている。その際に一人一人の状態を報告しチェック後アドバイスを頂き不安な事は相談し職員同士で情報共有している		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際定期的に面会に伺い、病院とも相談・状況把握・情報共有をし個人の特徴等を伝え、早期に退院できるよう努めている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取り支援を経験しており、終末期に向けた方針に関して医師、訪問看護師、ご家族と話し合い、職員のメンタル教育も行われ重度化や終末期に向けての体制を整え、都度ケアカンファレンスを行い方針も共有しチームで支援に取り組んでいる	医療との連携で終末期に対応しています。利用者の状態の変化に伴って家族と話し合いを重ね、家族が納得できる支援が行われています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変に備えて、消防署主催の救命講習に全員参加し対応方法等も身につけている。又、緊急時連絡の際のフローチャートや対応方法をファイリングし職員全員が置き場所を周知しておりすぐに手にする事ができる		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会を定期的開催し、災害時の対応を全員に周知している。又、年2回様々な災害に対応できるよう防災避難訓練を消防署協力の元行っている。近隣には高齢者が多く防災訓練はホーム独自で行っている	訓練は主に夜間を想定して行っています。有事には地域の消防団の協力が得られることになっており、食料も備蓄しています。	冬季の避難経路を確保すると共に、職員が少ない時間帯の対応を再度検討して訓練を重ねていかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格、人格に合わせた声かけを行いその時の状態に応じた接し方等対応している。否定せずに利用者様が納得するまで傾聴し言葉使いには注意しゆっくりと低い声でプライバシーに配慮しながら支援している	その人に合わせて接し方や言葉遣いに配慮しています。トイレ誘導の際にもプライバシーに配慮し、不快な思いをしないような声かけをしています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や飲み物はどんな物を食べたいか飲みたいかを伺い提供している。介助の方の衣類等は希望を聞いたり選択して頂けるように対応している		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の1日の時間の過ごし方を把握し入居者様の声を聞き、野菜の収穫・雑巾縫い・洗濯たたみ等好きな作業等をして頂き希望に沿った支援の為の環境作りに努めている		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみはもちろん、髪を結んだり、リボンを付けたりおしゃれを楽しんで頂いている。また、床屋や出張床屋を利用し利用者様の希望に叶うよう努めている		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節ごとに旬の食材を使用し食事を楽しんで頂けるよう努めている。食材の皮むき・盛り付け・おにぎりを握ったり・漬物を作ったり、食器拭き等のお手伝いもして頂きコミュニケーションをしながら楽しい食事に繋がるよう工夫している	漬物や調理に利用者が培ってきた長年の経験が活かされています。現在は中止していますが、外食も楽しむことができるよう工夫しながら支援しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を都度記録し、状況把握に努めている。利用者様一人一人に合わせた食事形態で提供し、自力摂取が難しい場合は介助にて対応している		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯の手入れは出来るだけ自分で行って頂いているが不十分な場合はお手伝いさせて頂いている。また、うがいや口腔ケア・ケアシートを使用して残渣が残らないように口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄についてはそれぞれのデータを取り、なるべくトイレで排泄ができるように一人一人の時間で誘導している	チェック表で個々のパターンに応じて対応し、トイレでの排泄を支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を常に確認、把握し便秘にならない様体操や腹部マッサージ、食生活での予防に取り組んでいる。また、3日間滞った際には上司や主治医へ相談した上で下剤で調整している		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望のタイミングに合わせた上で9人全員が平等に入浴出来る様に対応している。全介助が必要な方にもなるべく湯船へ入って頂けるように2人体制で安全に行っている。また、体調が優れない方には清拭や手・足浴で清潔保持に努めている	ゆっくり入りたい方等、個々の希望に応じ、いつでも入浴できるよう対応しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調面や気持ちの面で都度状態観察、考察しながら生活の中でストレスのない様過ごして頂いたり、また、日中の気持ちの安定が安眠に繋がるように支援している		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容・目的・副作用を含め一人一人の薬を把握し、職員同士での情報共有をしながら状態の変化に繋がらない様都度、医師やご家族へ報告をしている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のこれまでの生活を把握し、好みや習慣を自由に行動へ移せる様支援している。また、頼られているという張り合いの部分ではお手伝いや軽作業を通して一人一人に合った役割を提供している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常会話の中から汲み取ったり、訴えに対して傾聴し叶えられるよう支援している。また、食べたい物、行きたい場所、願望等をご家族の協力を得ながら実践している	感染防止のため外出を控えていることから、餃子やお好み焼きを一緒につくり、ホームの中で皆で楽しめることを企画して実行しています。受診の帰りにはドライブを兼ねて遠回りし、気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食時や買物へ出かけた際に付き添いした上で、自分の欲しいものを選んで頂き支払いもできる様に支援している		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙など連絡を取りたいという訴えがあった際には都度傾聴しお手伝いしながら支援している		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる掲示物や置物など、目で見て季節を感じられる様な環境作りをしている。また、温度・湿度・時期に応じた感染症対策を徹底している	利用者と一緒に洗濯物が干せる場所を造って空きスペースを活用する等、工夫しながら楽しく過ごせる空間づくりをしています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寂しい思いをしない様に周りの方と笑い合える空間と所々に椅子を設置し一人でゆっくりできる様な空間を作っている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所後のストレスも考え、自宅で使われていた物を使用して頂いている。また、自宅と同じような配置になる様工夫して対応している。時間が経っても居心地良く過ごせる様観察、情報収集に努め気持ちの安定に繋げている	入居時には家族に環境づくりを手伝っていただき、本人が安心して過ごせる居室となるよう配慮しています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の機能も把握しながらお手伝いやレクリエーションを通して日々機能訓練に努めている。また、職員間で常にリスクマネジメントをし安全に取り組める様話し合いをしている		